

# 令和7年度 山形県スポーツ推進審議会 議事概要

日 時：令和7年11月26日（水）13時30分～15時00分

場 所：山形県スポーツ会館 2F 大会議室

参加者：出席者名簿のとおり

## 1 開会

## 2 挨拶（観光文化スポーツ部長）

## 3 議事概要

- (1) 第1期山形県スポーツ推進計画の施策評価について
- (2) 第2期山形県スポーツ推進計画の施策・進捗状況について

◆事務局から説明後、委員からの主な御意見等については、次のとおり。

### 【板垣由紀子 委員（最上町教育委員会教育文化課 課長）】

- ・ 部活動が任意加入になったこともあり、スポーツ少年団等でスポーツを一生懸命する子どもと、全くスポーツをする機会のない子どもの二極化が進み、スポーツが得意な子どもとそうでない子どもの間に差が出てきていると感じている。
- ・ スポーツをする機会を提供するため、スポーツイベントを開催しても、地域の少子高齢化や人口減少の影響もあり、なかなか参加者が増えない。
- ・ 第2期計画を参考にしながら、町としても子どもにスポーツの楽しさを感じてもらい、スポーツ参加のきっかけとなる取組みを行っていきたいと考えている。

### 【奥山雅信 委員（県スポーツ協会 常務理事）】

- ・ スポーツを取り巻く環境は大きな変革期にあり、部活動の地域展開、プロスポーツを活用した地域づくりや交流人口の拡大、eスポーツ等に係る新しい取組みを行っているところもある。そのため、第2期計画の施策評価は非常に重要であり、施策についても常に見直しの視点を持つておくことが必要と考えている。
- ・ スポーツを取り巻く環境が多様になっているため、観光文化スポーツ部だけでなく、関係部局との情報共有や連携をお願いしたい。
- ・ 国民スポーツ大会の成績について、今年の天皇杯順位は42位という残念な結果になった。第2期計画の参考指標では「20位台を目指す」となっているが、現状からすると大変厳しいと感じている。

### 【栗田和真 委員（山形県中学校体育連盟 会長）】

- ・ 今年度の県中総体は、暑熱対策に苦心した。県内で冷房設備のある屋内施設は限られているため、大きな体育館に冷房設備を充実させることはスポーツ機会の充実につ

なると考えている。

- ・ 部活動の地域展開にあたり、特に大規模市町村の中には受け皿となる団体の整備、支援に課題を抱えているところもあるため、県からもバックアップしていただけたら非常にありがたい。
- ・ 生徒数の減少に伴い、教職員定数の減少、学校の統廃合が急激に進んでおり、加えて部活動の任意加入が浸透し、部活動の数も減ってきている。このような状況の中、部活動の地域展開が急激に進んでいるが、保護者の経済的・時間的な負担感に対する支援を含め、具体的な地域展開の中身が見えなければ、中学生世代のスポーツ離れが一気に進んでしまうのではないかと懸念している。
- ・ 豊かなスポーツライフを実現するためには、小中学生が手軽にスポーツにアクセスできる環境が非常に重要である。スポーツが一部の子ども達だけの活動にならないよう、県、市町村、学校現場が手を取って支えていく必要がある。
- ・ YAMAGATA ドリームキッズについて、スポーツタレントの発掘、育成のみならず、山形の未来を支える人材育成という面でも非常に大きな成果をあげている事業であり、大事にしていきたい。

#### 【黒沼祐蔵 委員（山形県障がい者スポーツ協会 常務理事）】

- ・ 先日開催された東京 2025 デフリンピックでは、山形県出身選手の皆さんにも頑張っていたいただいた。こういった大会が東京で開催されたことは、障がい者への理解促進に繋がるものと考えている。
- ・ デフリンピックの出場選手は、特別支援学校の出身者だけでなく、普通学校の出身者も多いことから、人材を発掘するためには、当協会と教育委員会の連携も必要ではないかと考えている。
- ・ 全国障害者スポーツ大会でも、本県出身選手の皆さんが本当に頑張ってくれた。練習場所の確保が難しい中、山形大学のグラウンドを貸していただき、そこで合宿等を行った結果が今回の成績に結びついたと考えている。一方で、最近はボランティアの確保が非常に難しくなっていると感じている。
- ・ 出前講座として、小中学校からボッチャ教室の講師依頼があるが、こういった事業を繰り返すことで、障がい者に対する理解が深まっていくものと考えている。
- ・ 障がい者の社会参加を阻む四つの壁というものがある。制度的な壁、物理的な壁、情報の壁、心の壁である。心の壁とは、障がい者に対する無知から誤解が生まれ、誤解から偏見が生まれ、差別に繋がるというもの。ぜひ障がい者スポーツを通じて、県民の皆さんから障がい者を正しく理解していただきたいと考えている。

#### 【佐藤勝子 委員（山形市立楯山小学校 校長）】

- ・ スポーツ少年団に加入している子どもや保護者の様子を見ると、週末の大会等により負担が増加し、疲れている様子が見受けられる。スポーツを推進するにあたっては、これらを支える健康管理や環境整備が大切になってくると感じている。
- ・ 最近の授業においては、子どもたち一人一人の多様性に配慮した、みんなが楽しめる授業の工夫が進んでいる。ただ、定年が延長となり特に高齢の教員の体力等に不安

があるため、学校として支援体制を考える必要がある。

- ・ 部活動の地域展開について、学校としても個人としても何をしたらいいかわからない部分が多く、不安を感じている。具体的にどのような取り組みが子どもたちの将来に繋がっていくのか、山形県全体として更に考えていただきたい。

#### 【高橋美保 委員（西川町スポーツ推進委員）】

- ・ 成人のスポーツ実施率（週1回）について、第2期計画の参考指標が第1期計画の数値目標と比べ引き下げられているが、目標は高く設定するべきと感じている。また、今後の取組みとして「スポーツ実施率の低い女性や若者の実施率の向上を図る」とあるが、施策評価や参考指標に女性と若者の実施率が示されていない点に違和感がある。
- ・ 中高一貫の強化指導体制の確立やトップアスリートの育成強化のための競技団体への支援について、どのような団体が支援や実施を希望し、県がどのような考えで支援しているのか見えてこない。
- ・ 全国レベルを目指す子どもたちの精神的なサポートは、現在は部活動の顧問の先生方が担っているが、部活動の地域展開により、子どもの育成が競技偏重にならないか懸念している。

#### 【早坂裕子 委員（山形県スポーツ少年団 本部員）】

- ・ 少子化やスマホ、ゲームに夢中になる子どもの増加により、県全体のスポーツ少年団の団員数は激減している。部活動の地域展開について、スポ少が受け皿として期待されているが、中学生のスポ少加入率は向上しておらず、スポ少をどのようにして存続していくのかが大きな課題となっている。
- ・ チームスポーツでは、一つのスポ少でチームを組むことができない団体もある。一方で、クラブチームは、週末を中心に活動時間が長いうえ、活動費用や送迎等、家庭の負担も大きいのが現状である。
- ・ 「幼児期から子どもが楽しく運動する取組みの推進」は重要だが、具体的な施策があまり示されていない。体を動かす楽しみを幼児期に覚えることは大切であり、例えば、園における1日の生活の中に、基本的なマット運動や鉄棒等を取り入れたらどうかと思う。

#### 【井上聡子 委員（さとこ女性クリニック 院長）】

- ・ 参考指標として国民スポーツ大会の順位設定も大事だと思うが、誰もが楽しいと思えるスポーツライフの実現が最終目標であると考えている。
- ・ YAMAGATA ドリームキッズの事業で、ジュニアの女子選手及び保護者に対し、体と心のコンディショニングについて話をする機会をいただいたが、よりそれぞれの知識を生かせるようスポーツドクターなど専門家同士で顔の見える関係を構築していきたいと考えている。
- ・ スポーツにおける女性の活躍推進として、「親子で参加できる種目」の実施とあるが、子どもを持たない女性や独身女性にも配慮した施策を展開する必要がある。

#### 【阿部弘生 委員（仙台大学体育学部現代武道学部 准教授）】

- ・ 新体力テストの結果分析にあたり、新型コロナを経験した年齢など、新型コロナの影響も考慮して分析することで、年齢に応じた適切な指導を行うことができる参考資料となると思う。
- ・ 山形県スポーツ推進条例の「する・みる・きく・ささえる」という理念に対し、第2期計画は「する」の比重が大きいと感じている。「みる・きく・ささえる」方にも、文化としてのスポーツの良さを感じてもらうことが重要である。
- ・ スポーツ施設は特に週末の利用者が多く、なかなか空きがない。学校開放事業を実施しているのであれば、幼児教育施設の遊戯室等の開放も視野に入れていいのではないかな。
- ・ 子どもへの運動指導に関して、発達段階に応じた適切な指導が重要であり、幼児教育と小中高大学が連携し、子どもを支える仕組みが必要ではないかな。
- ・ スポーツに親しむ県民を増やすため、県の施策や地域のスポーツ資源等を、スポーツを「する・みる・きく・ささえる」県民に対して広く周知する取組みを検討していただきたい。

#### 【細谷尚寿 委員（山形県高等学校体育連盟 会長）】※欠席のため書面で意見聴取

- ・ 県立高校の学校開放は約半数程度に留まっており、部活動の地域展開や各種クラブの活動を推進するため、全ての学校が開放できるよう、意識の醸成と学校施設の改修等を積極的に実施していく必要がある。
- ・ 県内のスポーツ施設は、べにばな国体を機に整備された施設が多く、今後のスポーツ振興を見据えて施設整備の中長期的なビジョンが必要である。
- ・ トップアスリート育成強化に関わる予算について、参考指標に掲げる国民スポーツ大会の天皇杯順位 20 位台を目指すためにも、他の都道府県の状況もみながら増額を検討してほしい。また、企業スポーツ振興協議会の更なる活性化を図り、部活動の地域展開により必要となる指導者の発掘など、企業の持つ力をスポーツに還元できる仕組み作りが必要である。

#### 4 その他

特になし

#### 5 閉会